

平成28年度 東部地区幼・保・小連携推進協議会 実施報告

1 期 日 平成28年8月8日（月）

2 会 場 アスカル幸手 ウェルス幸手

3 目 的 東部管内の幼児教育及び小学校教育の関係者を対象に研究協議会等を実施し、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携の強化・改善を図る。

4 内 容

(1) 全体会

- ① 情報提供 埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課 指導主事 清水 愛子
- ② 講演会 「幼保小連携における現状と課題
～保育・教育の接続期『段差』を考える～」
東京成徳短期大学 教授 安見 克夫 様

(2) 分科会

- ・ 研究協議

【協議題】 子育ての目安「3つのめばえ」、接続期プログラムについて
～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～

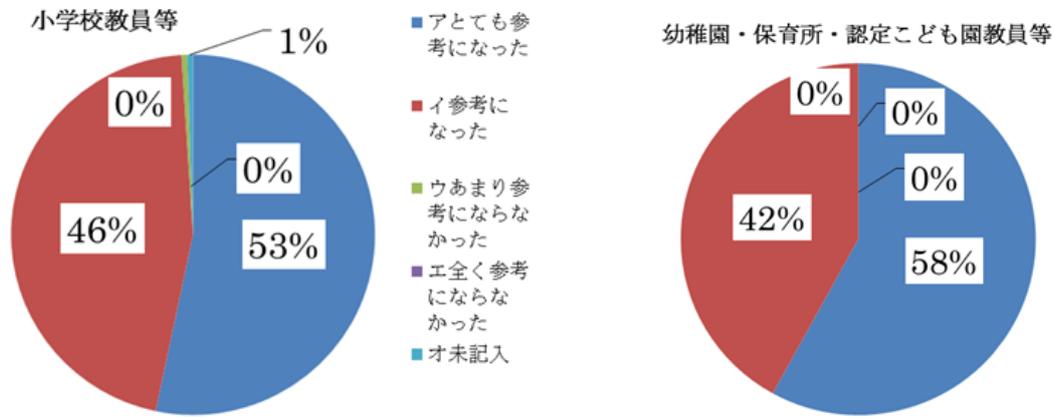
第1分科会	学びに関する視点	(2会場 17班)
第2分科会	家庭との連携に関する視点	(1会場 5班)
第3分科会	発達に関する視点	(4会場 17班)

5 参加者

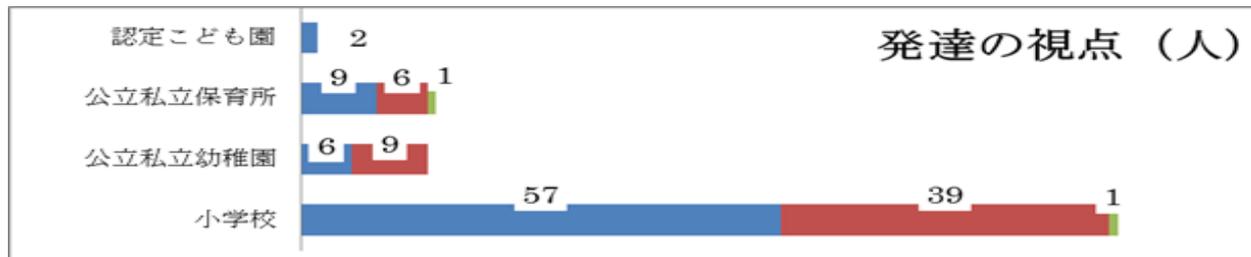
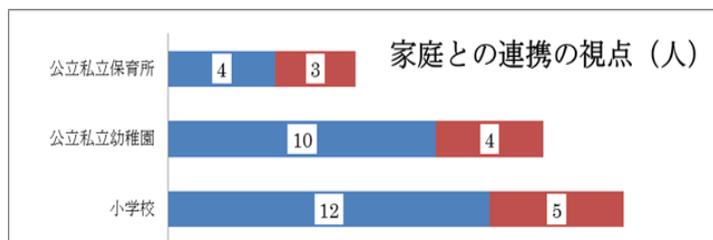
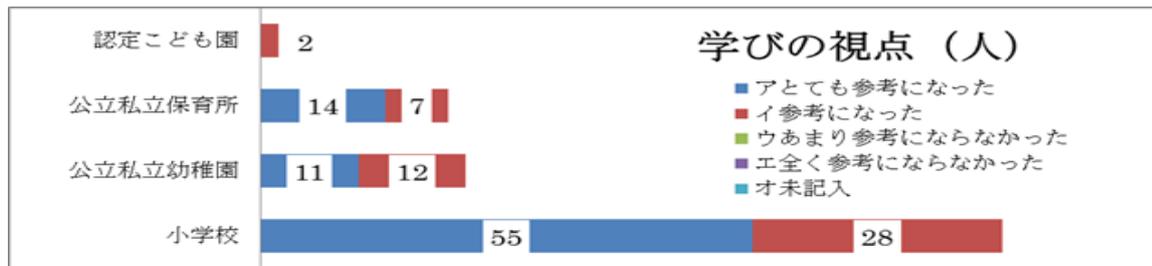
	出席者数
小学校	198名
公立幼稚園	20名
私立幼稚園	32名
公立保育所	30名
私立保育所	14名
認定こども園	4名
東部管内各市町教育委員会	16名
合計	314名

6 参会者の感想から

アンケート：本研究協議会の全体会は参考になりましたか 回答数 297名
 【校種別回答集計】（％）



【分科会ごと回答集計】
 分科会は参考になりましたか



全体会 講演



分科会 自校の事例を報告

○ 全体会について

- 子供の発達に伴った幼・保・小のつながりの重要性、段差のとらえ方を聞き、指導に生かしていきたいと感じた。
- 幼児期の教育から小学校の教育へのつながりにおいて、段差は必ずあるということが再認識できた。大切なのはどう乗り越えていけるかどうか、指導、支援していくことだと感じた。
- 幼保小連携の意図がよくわかった。
- 入学前の子供たちの期待感や不安感をしっかりとつかみ、支援したい。

○ 分科会について

- 参加者の地域や保育・学びの場は違うものの、それぞれで工夫して取組まれていることを情報として得ることができてよかった。
- 幼保小の子供同士の交流も大切だが、教員同士が顔を見て理解し合うことが重要だと感じた。
- 来年の入学説明会の時の資料を改めて見直したい。
- 本校に入学してくる幼保での取組についても、ぜひこの研修のような場で情報交換したい。

○ 運営等について要望等

- 全体会での講演は大変有意義でよかった。次回は実践事例発表も聴いてみたい。
- 分科会が大変有意義だった。もっと長い時間、話し合いたい。
- 子育ての目安「3つのめばえ」パンフレットは、私立幼稚園でも活用したい。また、通園児の全家庭に配布したい。(私立幼稚園教諭より)



学び・家庭との連携・発達の視点から、幼児期の教育と小学校教育のつながりを考える



協議したことを発表し、広める



協議に対する指導・助言